

合同国際シンポジウム2008

1. 合同国際シンポジウムの概要

2008年12月3日～6日にかけて、北京師範大学教育学院にて、集中講義や合同国際シンポジウムが行われた。2006年6月に結ばれた学术交流協定を記念して北京師範大学にて行われたシンポジウム、また2007年11月に京都大学で開催された合同シンポジウムに引き続き、3年目の2008年度は北京師範大学にて開催された。今回は教員6名（辻本雅史教授（団長）、大塚雄作教授、渡邊洋子准教授、金子勉准教授、南部広孝准教授、安川由貴子助教）、院生4名（竹腰千絵さん、李霞さん、河井亨さん、本部かの子さん）、通訳（楊奕さん）の計11名で訪問した。

12月3日の午後には、合同国際シンポジウムⅠ「現代日本の高等教育」を開催した。研究科の金子准教授、南部准教授のご報告を受け、大塚教授がコメントされ、質疑応答を中心に日本の高等教育理解に関わる活発な議論がなされた。また12月4日の午後、合同国際シンポジウムⅡ「学生の研究と生活：現状と課題」では、日中の大学院教育と院生支援に焦点をあてた報告が行われた。本研究科からは、辻本教授、院生の竹腰さんと本部さんが、教育学院からは、劉慧珍副教授、院生の于小霞さんと李凡卓さんが登壇した。李さんは、昨年秋のシンポジウムで来学し、院生分科会に参加された方である。双方の報告を受け、日中の院生指導体制の違いや、若手研究者養成に関わる各々の共通課題などが確認された。

両シンポジウムには、張斌賢院長、曾曉東副院長、高等教育研究所の先生方などに加え、他大学を含む20～30名の日中院生が参加した。集中講義と同時期に類似テーマのシンポジウムを開催したことで、日中の高等教育に焦点化した集中的な相互理解が得られ、実り多い機会となった。参加院生達は、上記シンポジウムへの参加、院生同士の企画・運営による学生交流会（歴史的文化施設の見学など）、食文化などの共通体験を通して、研究交流のみならず、お互いにより深く親密に触れ合える交流ができた。また、北京師範大学実験小学（附属小学校）の訪問では、体操の時間や英語の授業参観、先生方との懇談などで実地理解を深めた。



▶辻本雅史先生による報告



▶張斌賢院長からの質問

▶金子勉先生による報告



▶南部広孝先生による報告



2. プログラムおよび登壇者

12月3日(水)
14:00~17:00 (於: 英東楼)
合同国際シンポジウムⅠ
「現代日本の高等教育」

- ・「学部学科等の改組変革に関わる諸問題」
金子 勉 准教授 (京都大学大学院教育学研究科 比較教育政策学講座)
 - ・「多様化する大学入学者選抜制度」
南部広孝 准教授 (京都大学大学院教育学研究科 比較教育政策学講座)
- コメント: 大塚雄作 教授
(京都大学高等教育研究開発推進センター)
- 司 会: 高 益民 副教授
(北京師範大学教育学院 国際与比較教育研究所)



▶ 2日目の懇親会の後で



▶ 院生も食文化を通じて交流



▶ 北京師範大学実験小学の訪問 (英語の授業)

12月4日(木)
14:00~17:00 (於: 英東楼)
合同国際シンポジウムⅡ
「学生の研究と生活: 現状と課題」

- ・「日本の大学院教育の現状と課題
— 京都大学大学院教育学研究科の場合 —」
辻本雅史 教授 (京都大学大学院教育学研究科 教育学講座)
 - ・「競争的資金による大学院教育への支援体制
— 京都大学大学院教育学研究科の取組みを手がかりに —」
竹腰千絵 (京都大学大学院教育学研究科 比較教育政策学講座 博士後期課程2年)
 - ・「学部学生の研究室への適応と、現在の私の研究生生活」
本部かの子 (京都大学大学院教育学研究科 高等教育開発論講座 修士課程1年)
 - ・「北京師範大学博士研究生教育情況紹介」
(「北京師範大学博士課程教育の状況について」)
劉 慧珍 副教授 (北京師範大学教育学院 高等教育研究所)
 - ・「導師的指導と博士生培養質的分析」
(「指導教員の指導と博士課程院生養成の質的分析」)
于 小霞 (北京師範大学教育学院 碩士課程院生)
 - ・「我的北師大研究生生活」
(「北京師範大学での院生生活」)
李 凡卓 (北京師範大学教育学院 博士課程院生)
- 司 会: 劉 慧珍 副教授
(北京師範大学教育学院 高等教育研究所)

その他の学術交流プログラム

12月4日(木)
9:00~11:00
「北京師範大学実験小学」訪問

12月5日(金)
終 日
学生交流会 (孔子廟、国子監などの生涯学習施設の見学・交流)
14:00~17:00
打ち合わせ会議 (今後の学術交流・共同研究等)

このシンポジウムの様子は、「中国国際放送局」の日本語部のサイトにも掲載された。また、「人民網(人民日報のネット版)」の日本語版にもニュースが転載された(37頁参照)。同サイトでは張院長と辻本教授の発言を以下のように紹介している。

「国際化の背景の下、北京師範大は京都大学との学術交流を極めて重視している。学生と若手教員が交流の中で最も恩恵を受けている。」(張斌賢院長)

「教育学はそれぞれの国内事情に基づいたものだが、相手の視点に立てば、一層はっきり見えるものもある。中国と日本は文化の底流において深いつながりを持っているため、比較研究により、双方にとって参考となるものが多いはずだ。」(辻本雅史教授)

なお、本シンポジウムおよび大塚雄作教授による集中講義などの様子は、『京都大学大学院教育学研究科北京師範大学教育学院 学術交流プログラム2008報告書』として発行される。(文責: 渡邊 洋子)